

博士學位論文

内容の要旨

および

審査の結果の要旨

人間生活学研究科

第 21 号

令和 8 年 3 月

徳島文理大学

はしがき

この冊子は、学位規則(昭 28 年 4 月 1 日 文部省令第 9 号)第 8 条による公表を目的として、本学において博士の学位を授与した者の「論文内容の要旨および論文審査の結果の要旨」を収録したものである。

(学位記番号)

(氏名)

(論文題目)

甲第 12 号

山 下

司

デイサービスに通う女性高齢者の社会的フレイルと
食欲の有無が身体・栄養面, 生活様式との関連

氏名	やました つかさ 山下 司
本籍	徳島県
学位の種類	博士(学術)
学位記番号	甲第 12 号
学位授与年月日	令和 8 年 3 月 15 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文の題目	デイサービスに通う女性高齢者の社会的フレイルと食欲の有無が 身体・栄養面, 生活様式との関連
論文審査委員	(主査) 教授 増田 泰伸 (副査) 教授 石堂 一巳 (副査) 准教授 釜野 桜子 (副査) 教授 柳澤 幸夫

論文の内容要旨

フレイルの中でも社会的フレイルは他因子的な影響を受けるため、その実態は十分に解明されていない。孤食の高齢者はフレイルの発症や抑うつの有病率が 2 倍高いと報告されており、そのため社会的フレイルと栄養状態の関連性や食欲がおよぼす影響について改善を図る必要性がある。本論文は、地域在住高齢者における社会的フレイルと、身体機能、栄養状態および食欲との関連性を明らかにすることを目的とした。

2024 年 8 月から 9 月にかけて、徳島県 A 市のデイサービスを利用していた 65 歳以上の女性 45 名を対象とした。基礎属性、体組成、身体機能(握力、歩行速度)、栄養状態および食欲に関するデータを収集した。社会的フレイルは、山田らの質問票を用いて、ロバスト(健常)群、プレフレイル群、フレイル群の 3 群に分類した。統計解析には、一元配置分散分析、Kruskal-Wallis 検定および事後検定を用いた。

対象者はロバスト群 5 名、プレフレイル群 15 名、フレイル群 25 名であった。基本属性は 3 群間に有意差はなかったが、筋量、同居者数、フェーズアングル、

服薬数において3群間で有意差が認められた。食欲低下を有する者は、骨格筋量指数が有意に低く、また、同居者数が多い者ほど食欲低下の割合が高かった。

結論として、社会的フレイルは、筋量低下および同居者数減少と関連していた。また、独居者では食欲状態が保たれる傾向にあった。その一方、骨格筋量指数は低値を示した。今回の結果については、サンプルサイズおよび研究デザインの制約を考慮し、これらの関連性については慎重に解釈する必要がある。

論文審査結果の要旨

博士論文を上手にまとめて、口頭でのプレゼンテーションを行い、参加者に対してわかりやすく説明していた。そして、参加者からの質問にしても、丁寧に回答した。

高齢化におけるフレイル人口の増加は大きな社会問題であり、フレイルに向き合うことは大変重要である。論文の背景にある、身体的フレイル、社会的フレイル、心身・精神的フレイルの理解、また、フレイルによる身体機能や精神状態の問題の発生に関する知識および理解度は十分であり、結果に対し多面的に考察していた。

社会的フレイルは身体的フレイルと異なり、周囲の人や本人も気づかず、早期発見が困難で他因子の影響を受ける。今回の博士論文では、実態が解明されていない社会的フレイルと栄養および食欲と関連性についての研究を進めたという点で独創性があり、かつ、研究意義がある。その中、社会的フレイルは、筋量低下および同居者数減少と関連性を示す知見を得たことは、社会的フレイルの実態を解明する上で重要である。加えて、本研究の課題・限界点を明確にし、今後の研究の展望についても示された。

また、多くの外国語の引用文献も読み込んでおり、外国語の論文からの情報引き出しとともに、考察する能力も十分であると判定した。

以上のことから、山下司さんは博士（学術）に十分な学識と外国語力を持ち合わせており、本論文は博士論文に相応しい価値あるものと認める。